

大切にしたい！

人と環境にやさしい「水と生き物ふるさと常盤」

校区には野鳥が群生する琵琶湖岸や琵琶湖博物館を有する常盤小学校では、人と環境にやさしい「水と生き物ふるさと常盤」をテーマに、児童の気づきや思いから、人にも環境にも優しいまちづくりに貢献できる児童の育成をめざす。

1 学校の概要

本校は、京阪神への交通が便利なベッドタウンとして今なお人口が増加している草津市に位置する。

その草津市の中でも北西部の一番端に位置する校区には、田園地帯が広がり、冬にはコハクチョウが飛来する琵琶湖岸もある自然環境に恵まれた地域である。当然、地域住民の方々の環境への意識も高く、伝統的な環境活動も多く存在する。

また、滋賀県の誇る「県立琵琶湖博物館」が校区にあり、様々な学習で活用することができるのは環境学習を進めるうえで大きな利点である。

2 主な活動内容

(1) 低学年から積み重ねる環境学習

低学年から生活科で、地域の方の協力のもと学区内の水路に棲む生き物を観察することから、身の回りの水環境と生き物の関係について自然と学ぶ機会を設けている。児童の活動に際しての目的は「ザリガニ」見つけで始まるだが、その活動の中で、「水はどこから流れてどこに流れるのだろう」という疑問が生まれたり、「小さな川でもすごくたくさんの生き物が棲んでいるんだ」という驚きがあったりする。



〈2年生 環境を守る会の皆さんと水棲生物観察〉

この経験は中学年の琵琶湖博物館での学習や水と森林の学習へとつながっていくもので、母なる琵琶湖を守りたいという思いの基礎になる活動である。

(2) 視野を広げる中学年の取組

中学年では、琵琶湖博物館と連携する環境学習を多く設定している。一度の見学や体験に終わることなく、児童一人一人が琵琶湖博物館での学びを日常の活動に生かしたり、外での学習と関連付けて考えたりできることが重要であると考えている。

「ハス再生プロジェクト」では、国内最大級のハス群生地だった琵琶湖岸で、ハスを再生させる

活動に4年生が参加している。周辺の湖底で発芽しているハスを移植し、根付くかどうかをみる試みで、琵琶湖博物館みずの森公園で幼稚園の5歳児達と一緒に大きな鉢への移植を担当した。みずの森公園を訪ればいつでも自分が移植したハチがみられる環境にあるので、学校からだけでなく家族で観察に行く児童もいる。



〈4年生 地域の皆さんとハスの移植〉

こうした地域の環境を守る会の皆さんとの連携は大きな力となっている。見知った地域の方から学ぶことにより、水環境をより身近な問題としてとらえることができ、日常の生活に学んだことを生かせるきっかけになっていと考えている。



〈4年生 地域の皆さんと水路観察〉

(3) 身近なエディブルスクールヤード

田んぼを生かした取組

5年生では、地域の田んぼを生かした取り組みを中心に水環境学習を進めている。特に米づくりには、育てて食べるという「エディブルスクールヤード」の考えに近い活動が織り込まれている。

「田んぼの学校」では、田植え→観察→収穫→炊飯の流れの中に、「ニゴロブナの田んぼ稚魚放流・救出」や「ふなずし」学習を配置することで、地域で古くから食されている「ふなずし」につい

て、深く学びたいと考えるきっかけとなった。



〈5年生 ニゴロブナの放流と救出〉

また、一連の米づくりから「収穫祭」での「餅つき」や「おこわづくり」も「もち米」による田んぼの学校だからこそその活動であり、身近なエディブルスクールヤードの考えを学ぶものであった。



〈5年生 地域の方と収穫祭「餅つき」〉

3 成果と課題

校区は湖岸が近く、また農業水路や河川といった水環境を身近にみられる地域であることから、従来から水にかかわる学習が多く設定されてきていた。

今まで、長年にわたって続けてきた学習活動を、身近な水環境にかかわる学びとして整理することで、学習の系譜をはっきり表すことができ、児童の学びも深まった。

そのように多種多様な学習活動の中でも、5年生の学習活動が特に多くなり、琵琶湖フローティングスクールでの環境学習にうまく結びつけることができているという課題が残っている。

フローティングスクールでの自然体験活動は、児童にとって、大変価値のあるものである。それぞれが独立したものではなく、一連の環境学習として、児童の思考の中でも組み合わせられるよう、計画を立てていきたい。

学校名	草津市立常盤小学校
住所	草津市志那中町119
電話番号	077-568-3568
E-mail	info@tokiwa-p.sk.ed.jp